

酒田市被災者生活支援・地域支えあいセンターが行う被災者支援に関する考察

武田 湖南

令和6年7月25日から発生した豪雨災害は、山形県全域で多くの住民の生活に深刻な影響を及ぼした。この状況を受けて、特に被害が甚大であった山形県酒田市では、災害発生直後より、行政機関や社会福祉法人酒田市社会福祉協議会が開設した「酒田市災害ボランティアセンター」が迅速な対応を行った。現在は、同協議会内に「酒田市被災者生活支援・地域支えあいセンター」（以下、「地域支えあいセンター」という。）を設置し、継続的な被災者支援活動が進められている。そこで本研究では、地域支えあいセンターによる被災者支援に焦点を当て、その役割と可能性を明らかにすることを目的とし、以下の構成で研究を行った。

第1章では、全国社会福祉協議会が策定した『大規模災害対策基本方針』や先行研究から、被災者支援の在り方をまとめた。第2章では、令和6年7月25日からの豪雨災害の発生の流れや被害状況などの分析から、被害の甚大さを明らかにした。第3章では、酒田市での被災者支援に着目し、行政機関の対応過程、酒田市災害ボランティアセンターや地域支えあいセンターの支援内容などの整理と分析を行った。第4章では、地域支えあいセンターの職員4名を対象に実施したインタビュー調査をもとに、個別支援と地域支援の2つの側面から被災者支援の在り方を考察した。

これらの研究結果より、酒田市では多方面での包括的な被災者支援が構築されており、特に地域支えあいセンターが展開する被災者支援は、さまざまな機関と連携・協働しながら、被災者個々の生活再建と地域コミュニティの再生を同時に支える役割を果たしていることが明らかになった。